令和２年度　宇都宮市立陽西中学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す生徒像含む）

【基本目標】

国，県，市の方針や地域の実態を踏まえるとともに，「人間尊重の精神」を基盤として，個性豊かで情操に富んだ人間として，平和で民主的な社会の発展に貢献できる日本人の育成を目指す。

【生徒の指標（生徒の信条）】

〇敬愛の心があつく心情豊かな生徒
〇よく考え主体的に行動できる生徒
〇体力気力の充実した健康な生徒

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

第２次宇都宮市学校教育推進計画にある目指す学校の姿「誰もが安心して学べ，活力にあふれる学校」を理念として学校経営に努める。

（１）本年度テーマを「温もりのある学校・やる気あふれる学校・外へ開かれた学校」とする。学校マネジメントアンケート回答から，本校においては，温かなそして温もりを感じられる校内環境と人間関係を必要としていることがうかがえた。そして，そのような環境の中で，生徒一人ひとりが自己肯定感を高め，やる気あふれる学校づくりを目指す。また，地域とともにある学校づくりを進めるために，外へ開かれた学校をテーマに，よりよい生徒の育成に取り組んでいく。

（２）小中一貫教育の柱を，児童生徒指導の基本である「自己指導能力の育成」とし，「共に学びあい，互いのよさを認め合う人づくり」をテーマに，社会的自立を目指すキャリア教育を推進し，「自己の『よさ』を活かし粘り強く頑張る子ども」を育てる。

（３）「目指す教職員像」にせまるため，コンプライアンス研修，各教科経営計画の継続的な見直しを含む研修，生徒理解を深めるための研修等を短時間であっても効果的に行うことにより，下記の信頼される教員集団を形成する。

①　公教育に従事する者としての自覚と使命感にあふれる教職員
②　生徒の個性を尊重し，共にのびてゆく教職員
③　厳しく，温かく，公平で，信頼される教職員
④　常に研究と修養に励み，健康で魅力あふれる教職員
⑤　目標達成への意欲と創造性に富む教職員

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

（１）温もりのある学校づくり

・校舎内・校庭等における環境美化に努める。
・校舎内，廊下，壁面等の掲示物の充実に努める。
・生徒・保護者・教員相互の望ましい人間関係づくりに努める。

（２）やる気あふれる学校づくり

・規範意識の育成に努める。　　・自己肯定感の育成に努める。
・時と場に応じたあいさつやマナーの育成に努める。
・生徒の個性に合わせたきめ細やかな指導・支援に努める。（特別支援教育の推進）
・心の教育の推進といじめを許さない集団作り，人間関係構築力の育成に努める。
・リーダーの育成と生徒相互が支え合う集団作り（含　生徒会活動の活性化）に努める。
・わかる授業の展開に努める。

（３）外に開かれた学校づくり

・保護者や地域，関係機関・団体等との連携を密にし，相互の信頼関係に立って本校の教育にあたるとともに，開かれた学校づくりに努める。
・学校ホームページを効果的に活用し，情報の発信に努める。

〇（４）実効性のある小中一貫教育を推進する。

［陽西地域学校園教育ビジョン］

自己の「よさ」を活かし，粘り強く頑張る子どもの育成

～社会的自立を目指すキャリア教育を通して～

4　教育課程編成の方針

（１） 関係法令，学習指導要領，第２次学校教育推進計画，第２次宇都宮市学校教育スタンダード，令和２年度指導の重点に基づき，地域の実態や生徒の発達段階，特性を考慮した特色ある教育活動を展開し，公教育の自覚のもとに，全教職員の理解と協力によって，本校の教育目標の実現を期す教育課程とする。

（２）自己実現のための意欲の向上を図るキャリア教育の推進を教育課程に位置づけ，総合的な学習の時間，特別活動，道徳科での指導を工夫し，地区内小学校とのつながりがもてる社会性育成のプログラムとする。

（３）教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図り，生徒のより良い適応を目指し，学級活動や特別活動の効果を学習意欲向上に生かせるように努める。

（４）教科主任会，各教科部会，学年会，校内研修において，一人ひとりの生徒に確かな学力をつけられるよう，指導計画と評価計画に基づいた学習指導法の工夫を検討するとともに，補充学習，夏季休業中の学習支援の実施や，家庭学習の定着に努める。

5　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

【学校運営】
・学校の組織力の強化と生徒への指導・支援の充実
【学習指導】
〇「対話」を通して思考を深め，主体的に学ぶ生徒の育成
【児童生徒指導】
・きまりを守り，正しい判断のもと主体的に行動する生徒の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
・健康を大切にし，元気に生活できる態度の育成
【働き方改革】
・毎月 2 回の「学校リフレッシュデー」実施（退勤時間の設定，校内完全消灯と施錠）

6　自己評価（評価項目のＡは市共通，Ｂは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。
※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
目指す生徒の姿	Ａ１　生徒は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　〇「対話」を意識した授業づくりに努め，「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し，実践する。 ②　定期テスト前の質問学習やテスト後の補充プリントの作成，学習サポート，教科部会の効果的実施等学校体制として取組む。 ③　自主学習ノートの指導を通して，家庭学習の習慣化を図る。	Ｂ	【達成状況】 ・感染防止対策に配慮が必要な中で，様々な工夫をした「対話」を取り入れた授業づくりに努めた。また，家庭学習の習慣化を図るために自主学習ノートの指導を行った。 ・教職員の肯定的回答は 92.1%で，前年より 18.2 ポイント(以下 P)上回っている。 【次年度の方針】 ・「対話」を含めた「深い学び」を意識した授業づくりに努め，「学び合う」ことで学習が深められるような授業の展開を工夫し実践する。 ・自主学習の取り組み方を授業の中で説明し，実践させる。また，自主学習用のプリントを用意するなど生徒が取り組みやすい環境を整える。 ・保護者の協力を得るなど，生徒の取組をより多くの目で見守れるようにエ夫することで，更なる家庭学習の定着を図る。

	Ａ２　生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　道徳の授業を通して，思いやりの心について考えさせる。 ②　道徳の年計を見直し，道徳の授業と学校行事を関連させたり，体験活動を位置付けたり，様々な体験を想起させたりすることで，道徳的実践につながるようにする。 ③　生徒の良さを褒めて伸ばす教育をすることにより，自己肯定感を育む。	B	【達成状況】 ・道徳の授業で，思いやりの心について深く考えることを通して，生徒の優しい心が育まれた。また，道徳の授業以外の様々な場面でも思いやりの大切さについて想起させるなど，道徳的実践力の育成に努めた。 ・教職員の肯定的回答は 84.2%で，前年を27.7P 上回っている。 【次年度の方針】 ・自分の良さを知り，伸ばすことで，自己肯定感を高め，さらに他者理解も深まる思いやりの心を育む。
	Ａ３　生徒は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　チャイム着席，授業の開始・終了時のあいさつができるようにするとともに，服装や姿勢を整えて授業に臨めるよう指導する。 ②　教職員の共通理解，共通指導の充実を図る。さらに，きまりの遵守やマナー向上の意識を高めさせる取組を教科指導はもちろん，生徒主体で行うようにさせるなど，内容を工夫して実施する。	B	【達成状況】 ・チャイム着席の励行等，継続した取組を行うことができ，決まりやマナーを守る生徒が増えてきている。 ・生徒の肯定的回答は83.9%で，前年を7.7P上回っている。 【次年度の方針】 ・教職員の共通理解・共通指導の徹底を図るとともに，ルール作成等に生徒の主体的な関わりを増やす取組を工夫することで，規範意識向上の醸成を図る。
	Ａ４　生徒は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　時と場に応じた心のこもったあいさつの仕方についての指導を充実させるとともに，本校のよき伝統として継承していく。 ②　日常の生活の中でのあいさつ指導に加え，生徒会各委員会や部活動等による，生徒主体のあいさつ励行を推進する。	B	【達成状況】 ・生徒達は，時と場に応じた明るくさわやかなあいさつができる。部活動等の経験を通し，伝統的なよさを継承する生徒が増えている。 ・地域学校園小中合同あいさつ運動や生徒会での取組を行う等，あいさつの活性化を図った。 ・教職員の肯定的回答は68.4%で，前年を1.2P下回っている。。 【次年度の方針】 ・生徒主体のあいさつ運動を，感染防止対策を講じながら，計画的に実施する。
	Ａ５　生徒は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　学年・学級・生徒会専門委員会・部活動ごとに目標を決めたり，学校行事のスローガンを設定したりすることにより，目標を明確にするとともに，協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ②　〇キャリア教育の充実を図りながら，自分の良さや個性を理解し，将来の夢をもたせ，夢の実現に向かってあきらめずに努力する態度を育成する。 ③　各学級・専門委員会・部活動において，振り返りを行わせ，生徒自らの取組を今後に生かす指導を充実させる。	B	【達成状況】 ・行事等の実施が難しい状況の中で，生徒に目標をもつことや努力する態度の育成を十分に図ることは困難であった。 ・教職員の肯定的回答は 60.5%で，前年と同じ程度である。 【次年度の方針】 ・学級活動や総合的な学習の時間の中で，自己理解や，将来の夢の実現に向けて努力することの大切さを考えさせるよう，進路学習の充実を図る。 ・特別活動の充実を図り，協力して目標に向かって努力する態度を育成する。特に，スローガン等を教室に掲示したり，それに向けての各自の目標を明確にさせたりする。 ・「Will ナビ」等を活用し，生き方や夢の現に向けて努力することの大切さを考える場面を設定する。

	Ａ６　生徒は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　「うつのみや元気っこプロジェクト」を活用するなど，食育や体育的活動の充実を図り，自分に合ったバランスのよい食生活をするとともに，体力増進に努めるなどして，健康な生活ができるようにする。 ②　「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」「がん教育講演会」「いのちの授業」「性教育出前講座」等を実施して，健康や安全への意識の向上を図る。	Ｂ	【達成状況】 ・コロナ禍の影響で，部活動や体育科の授業内容が制限され，また予定していた学校行事等が中止・縮小になったことにより，体力の増進を図る機会が失われた。 ・食育の充実を図るため，日々の給食において食や健康に関する情報を提供し，健康な生活ができるよう啓発した。また，お弁当の日の取組を通し，基本的な食習慣の形成を目指した。 ・教職員の肯定的回答は 68.4%で，前年を 5.5P 下回っている。 【次年度の方針】 ・感染防止対策を継続，強化し，生徒や保護者への指導・啓発を徹底する。 ・「うつのみや元気っこプロジェクト」に則り，生涯を通して健康，安全に留意して生活を送る能力の育成に努める。
	Ａ７　生徒は，夢や目標をもって，社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　各教科・道徳・総合・特別活動等学校教育全体を通して，基礎的・汎用的応力の育成に努め，キャリア教育を推進する。 ②　キャリアパスポートの作成を通して，自分と社会のつながりを意識したり，未来の自分のイメージを持つことにつなげさせる。	Ｂ	【達成状況】 ・基礎的・汎用的能力の育成に意識的に取り組むプログラムが不十分であった。 ・教職員の肯定的回答は 60.5%で，前年と同じ程度である。 【次年度の方針】 ・学校教育活動全体を通し，社会や自分とのつながりを考えさせ，勤労観や職業観を育むための学習を計画的に実施する。
	Ａ８　生徒は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　英語科の授業において，英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動を多く取り入れる。 ②　ＡＬＴの各学級への給食訪問や学校行事等への参加を通して，生きた英語に触れる機会を充実させる。	Ｂ	【達成状況】 ・英語科の授業において，英語で伝え合うことの楽しさが味わえるような言語活動やＡＬＴと直接やりとりをするような場面を設定し，実践することができた。 ・生徒の肯定的回答は 81.5%で，前年と同じ程度である。 【次年度の方針】 ・ＡＬＴが，積極的に各学級へ給食訪問や休み時間の交流，学校行事等への参加を通して，生きた英語に触れる機会を一層充実させる。
	Ａ９　生徒は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　生徒が地域でのボランティア活動に積極的に参加し，地域の人々との交流を図りながら，地域に関心をもち，地域の良さを知ることができるように充実を図る。 ②　「総合」の学習に地域を知る活動を取り入れる。 ③　給食の献立に「地産地消」の食材を用いるようにし，栄養教諭による献立の説明で宇都宮の農産物について理解・関心を深めさせる。	Ｂ	【達成状況】 ・２学年では，「宇都宮学」を取り入れたが，地域のボランティア活動等が，コロナ禍の自粛により十分に実践できなかった。 ・毎月の献立に旬の地域食材を活用し，地域食材を生かしたレシピを取り入れた。また，献立表に明記したり，詳しい説明を放送や映像を使って説明することで，地域の農産物を生徒に周知することができた。 ・生徒の肯定的回答は 73.9%で，前年より 2.6%上回っている。 【次年度の方針】 ・来年度は，総合的な学習の時間に「宇都宮学」が取り入れられ，地域を知る活動を行う。地域への愛情や関心を深めることにより，宇都宮のよさの理解につなげる。

	A10　生徒は，ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　各教科や「総合」の時間に，図書館司書と連携を図りながら，パソコン室や図書館を積極的に利用するようにする。 ②　生徒会専門委員会の活動を工夫して，ＩＣＴ機器や図書館の利用促進を図るとともに「まなびポケット」の全クラス講習会を行う。 ③　ＮＩＥ活動を推進し，新聞に親しむ態度を育成する。	B	【達成状況】 ・コロナ禍の影響により，各教科および総合的な学習の時間における，パソコン室や図書館の活用は不十分であった。 ・生徒の肯定的回答は 55.9%で，前年から 2.2P 上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒会，専門委員会の活動で積極的にパソコン室や図書館の利用を推進する。 ・NIE 活動を引き続き推進する。 ・図書館司書の積極的な授業への参画を勧める。
	A11　生徒は，高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　道徳・家庭科の授業において高齢者や弱い立場の方などへの感謝やいたわりの心を醸成する題材を扱う中で，生徒の心を育む。 ②　総合的学習の時間の中で，高齢者疑似体験等の体験活動を取り入れる。	B	【達成状況】 ・道徳の授業で，高齢者への感謝やいたわりの心を醸成する題材を取扱い，思いやりの心の育成を心がけた。 ・生徒の肯定的回答は 89.2%で，前年を 6.9P 上回っている。 【次年度の方針】 ・道徳等の授業で，高齢者にとどまらず，弱い立場の方に対する思いやりの心を育む題材を扱うようにする。
	A12　生徒は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　学級活動等において，ＳＤＧｓについての理解を深めるとともに，ＮＩＥの活動を通して，新聞を用いて，環境問題や防災等について学ぶようにする。 ②　環境問題に関心をもたせるために，節電・節水に努めさせるなど，身近なところからできることを見つけて実践させる。 ③　生徒会ボランティア委員会によるリサイクル活動を推進する。	B	【達成状況】 ・ＮＩＥの研究指定校として，環境問題に取り組んだり，ボランティア委員会を中心に活動したりした。 ・教職員の肯定的回答は 42.1%で，前年から 8.8P 上回っている。 【次年度の方針】 ・各教科や総合的な学習の時間において，ＮＩＥの活動を取り入れ，環境問題等について学習するとともに，委員会活動を中心に，実践的な態度を養わせる。 ・３学年の総合的な学習の時間に SDGs の学習を位置づけるとともに，１，２年次においても環境・防災を扱う授業を学級活動で取り入れる。
	B1　生徒は，体育祭，文化祭，地域ボランティア活動に積極的に参加し，協力して活動している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　自主的・実践的な態度をはぐくむため，体育祭や文化祭等の学校行事に，生徒の意見や創意工夫を取り入れるようにする。 ②　地域のボランティア活動を推進するための働きかけを積極的に行うとともに，活動の成果を掲示するなどして，生徒の自己有用感を高める。	B	【達成状況】 ・感染症対策の影響もあり，すべての行事が学年別や一部変更など縮小化され，特にボランティア活動は実施できなかった。そのような環境の中でも，工夫しながら積極的に実施することができた。 ・生徒の肯定的回答は 91．9%で，前年から 2.4P 上回っている。 【次年度の方針】 ・時期や方法などを十分に検討し，生徒の意見も取り入れながら工夫して行う。 ・学校行事等では，より充実感の味わえる行事の設定について，教職員の共通理解のもとで再検討する。

目指す学校の姿	A13　教職員は，特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　特別な支援を必要とする生徒について，必要に応じて指導カルテを作成したり，ケース会議を実施したりして，適切な支援ができるようにする。 ②　生徒指導部会や教育相談部会で，生徒の状況について情報の共有を図ったり，対応策を検討したりする。 ③　ユニバーサルデザインについての研修を深め，授業の中に取り入れることにより，合理的配慮への意識の向上を図る。	B	【達成状況】 ・特別支援教育コーディネーターを中心として，個別の指導カルテの活用やケース会議の開催，部会等で生徒の状況について共通理解を図ることができた。また，必要に応じて他機関と連携しながら積極的支援を行うことができた。 ・授業公開（一人一授業）の実践において，ユニバーサルデザインの視点を授業に取り入れ，視覚支援やグループ活動上の配慮などを行った。 ・教職員の肯定的回答は 97.4%で，前年と同じ程度であった。 【次年度の方針】 ・情報の共有を図り，必要に応じて他機関等との連携を図りながら，段階的・組織的な対応を行う。 ・生徒指導カルテを継続して作成し，学年ケース会議などでも活用する。
	A14　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	①　「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識の下，未然防止の取組の充実を図り，いじめの起こらない環境づくりに努める。 ②　生徒が相談しやすい環境を整備するとともに，教職員は生徒理解を深め，信頼関係の構築に努力することで，いじめの早期発見に努める。 ③　「いじめ根絶集会」を実施するなど，いじめ防止対策についての取組をより充実させる。さらに，教職員のいじめ防止に対する意識といじめに関する対応力を向上させるために校内研修を充実させる。	B	【達成状況】 ・いじめ根絶集会や全生徒によるいじめゼロ標語コンクールなどを実施し，未然防止のための取組を行った。 ・保護者の肯定的回答は 82%で，前年から 4.8P 上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒主体のいじめ根絶集会の取組をより充実させ，いじめを許さない学校風土を築く。 ・教職員がより人権感覚を磨き，いじめ防止に対する意識を向上させるとともに，生徒，保護者との信頼関係を構築する。
	A15　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	①　スタンダードダイアリーを活用したり，教育相談を行ったりして，生徒一人一人に寄り添った指導をする。 ②　保護者との電話連絡や必要に応じた家庭訪問を行うなどして，家庭との協力関係を構築する。 ③　気になる生徒の早期発見，早期対応を心がけ，校内支援体制を活用して，新たな不登校の生徒を生まないよう支援する。	B	【達成状況】 ・ダイヤリーの活用や教育相談活動，保護者との連絡を密に取り，また，必要に応じて家庭訪問を実施し，一人一人の生徒に寄り添った指導を行うことができた。 ・保護者の肯定的回答は 91.6%で，前年から 3.5P 上回っている。 【次年度の方針】 ・校内支援体制を効果的に活用し，生徒の心身の健康状態の変化等に対応するなど，新たな不登校生徒を生まないよう支援する。 ・風通しのよい職場環境の維持，また情報の共有と，多方面からの支援を行っていく。
	A16　教職員は，外国人児童生徒等の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　日本語指導が必要な生徒の個別指導計画を作成し，日本語指導ボランティアと連携を図って指導にあたる。 ②　家庭との連携を密にしながら，生徒や保護者のニーズを確認し，学校生活や進路相談等がスムーズになされるよう支援する。	B	【達成状況】 ・日本語指導が必要な生徒に対し，日本語指導ボランティアと連携し，また，家庭との連絡も丁寧に行った。 ・教職員の肯定的回答は 97.4%で，昨年と同じ程度であった。 【次年度の方針】 ・生徒の実態や各学年の必要性に応じて適切に支援し，自己実現を図る。 ・保護者との面談等においても，必要に応じて依頼し，十分な意思疎通が図る。

	Ａ17　学校は，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　学校行事等を通して，生徒が目的意識をもって協力しながら主体的に活動して達成感や自己肯定感を得られるような場を設定し，活動を支援する。 ②　生徒会活動を通して，生徒の自主的な活動を推進するとともに，委員会活動の活性化を図る。 ③　学級経営や教育相談を充実させ，「居がい」のある明るい学校づくりに努める。	Ｂ	【達成状況】 ・コロナ禍の影響で行事等が縮小され実施されたが，生徒は限られた環境の中で，主体的に動き，成果を収めた。また，生徒会活動でも適切な役割を果たし，積極的に活動した。 ・ピアサポート活動を意識しながら，学級委員を中心とした「居がいのある学級づくり」に努めた。 ・生徒の肯定的回答は 86.7%で，昨年から 6.3P 上回っている。 【次年度の方針】 ・学校行事，生徒会活動は，生徒が主体的に運営が行えるような場を設定する。 ・各学年共通理解のもと，学級経営の充実を図り，教育相談体制の強化も図る。 ・教職員間で柔軟な意見交換ができる環境作りに努め，活性化を図る。
	Ａ18　教職員は，分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　個に応じたきめ細かな指導を行う。数学科及び英語科においては，習熟度別学習やＴ･Ｔなど，指導形態を工夫し，学力を向上させる。 ②　日々の授業で，学びのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」の効果的な活用を心がけ，生徒が主体的に深く考え，取り組めるような授業の展開を実践する。 ③　「一人一授業公開研修」実施により教員の授業力向上に努める。	Ｂ	【達成状況】 ・英語科・数学科では，習熟度別学習やＴ・Ｔなどの指導形態を工夫し，「ユニバーサルデザインの視点」を生かした授業づくりを行うなど，個に応じたきめ細かな指導を心がけた。 ・生徒の肯定的回答は 89.6%で，昨年から 3.2P 上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒の，主体的で深い学びを実現するため，指導法の工夫やＩＣＴの利活用に取り組む。また，習熟度別学習やＴ・Ｔなどにより，個に応じた指導に充実に努め，学力向上を図る。
	Ａ19　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　ＳＣ，ＭＳ，かがやきルーム指導員，学校図書館司書等との連携を強化しながら，チームとして生徒の状況の把握と支援に努める。 ②　配慮を要する生徒について，多様な立場や観点からの生徒の見取りや専門的な知見を，指導に生かす。	Ｂ	【達成状況】 ・支援を要する生徒の対応において，ＳＣＭや特別支援教育コーディネーターが支援の窓口となり，学年や関係教職員，ＭＳ，ＳＣと連携を図りながら，支援の場や支援者を調整するなど，チームとして支援を行った。 ・教職員の肯定的回答は 92.1%で，昨年から 5.1P 上回っている。 ・SC，MS による相談活動については積極的，継続的な支援が行われ，効果的な生徒の変容が見られた。 【次年度の方針】 ・配慮を要する生徒の支援の状況や方向性などを，全職員で共有することで，校内支援体制の強化に努める。
	Ａ20　学校は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　教職員一人一人が，ミライムを活用して出退勤時刻の記録を確実に行うようにする。 ②　業務の効率化を図るとともに，会議や研修等の効率化と内容の精選を図る。 ③　定期的に「リフレッシュデー」を設定したり，部活動の休養日を設けたりして，教職員の負担が軽減できるよう配慮する。	Ｂ	【達成状況】 ・定期的な声掛け，確認を行い，出退勤記録への意識の向上を図った。また，リフレッシュデーの実施や部活動の休養日を確保し，負担軽減に努めた。 ・コロナ禍の中，全職員への周知や共通理解を図る必要性が高い状況であり，会議の効率化や削減は難しかった。 ・教職員の肯定的回答は 60.5%で，昨年から 14.8P 上回っている。 【次年度の方針】 ・会議・研修をオンライン等で実施するなど，可能な範囲で業務の効率化を図る。

	Ａ21　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　〇小中一貫教育について教職員がさらに理解を深め，生徒や職員の交流や連携による実践（あいさつ運動）を行う。 ②　〇小中一貫各部会において，業務の精選を図るとともに，児童生徒の課題を的確に把握し，必要に応じて連携を図る。（次年度の地域学校園テーマ設定）	B	【達成状況】 ・会議等の取組は中止になったが，小中乗り入れ授業やあいさつ運動においては，計画通り実施した。 ・教職員の肯定的回答は，86.8%で，昨年と同じ程度である。 【次年度の方針】 ・地域学校園の児童生徒の実態を把握・分析し，課題を明確にするとともに，解決のために小中が連携して取り組む。
	Ａ22　学校は，地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　望ましい職業観や勤労観を養うために，地域や家庭，外部機関や企業等との連携・協力を深めた授業や体験活動を行う。 ②　「よさこい踊り」や「苗植え・稲刈り体験」「わかくさ特別支援学校との交流」，「地域のボランティア活動」等を継続，充実させ，地域のよさを感じ取ったり地域の一員としての自覚を高めたりさせる。	B	【達成状況】 ・コロナ禍の影響により，様々な行事や地域との連携が中止になった。その中で，方法を変更するなど，可能な範囲で工夫して実施した。 ・教職員の肯定的回答は 100%で，昨年から 6.5P 上回っている。 【次年度の方針】 ・地域の一員としての自覚を，学校行事や総合的な学習の時間を通して高められるよう手立てを講じていく。 ・地域との交流をどのように行っていくか，今後方法を含めて検討する。
	Ａ23　学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	①　学校ＨＰや学校だよりを活用して積極的に情報発信を行い，学校の教育活動に対する理解と協力が得られるようにする。 ②　家庭訪問，保護者会，三者懇談，オープンスクールなどさまざまな機会をとらえて，家庭や地域との連携を図る。 ③　陽西中学校地域協議会との連携を図り，地域の祭りや清掃などの奉仕活動に積極的に取り組むようにする。	B	【達成状況】 ・コロナ禍の影響で，保護者会や各種地域との交流等は中止になった。その中でも，学校ＨＰで学校行事や生徒の様子を発信したり，学校からの一斉メールを活用したりして，保護者の理解と協力を得られた。 ・保護者の肯定的回答は 85.4%で，昨年と同じ程度である。 【次年度の方針】 ・学校ＨＰをさらに有効活用し，生徒の活動の様子をリアルタイムで情報発信できるように努める。 ・家庭や地域との交流の充実のため，ＰＴＡや地域協議会等と意見交換を行い，よりよい生徒の育成を図る。
	Ａ24　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　安全点検を，毎月確実に行うとともに，改善箇所の修繕を迅速に実施する。また，避難訓練の実施方法を見直し，より実践的な態度の育成を図る。 ②　台風や地震，大雨などの自然災害発生時には，校舎内外の巡視を行い，危険回避に努めるとともに，危険個所の発見と早期対応ができるようにする。 ③　事務部と連携して，学校予算の適切な運用を図り，環境整備に努める。	B	【達成状況】 ・安全点検を毎月確実に行い，破損箇所等の把握や修繕を行うとともに，状況によっては業者による改修を学校予算等を有効に活用して迅速に対応した。 ・避難訓練はコロナ禍のため実施できなかったが，ビデオ視聴による災害時の対応等について安全指導を行った。 ・豪雨や雷等の突発的な自然災害の危機に，組織的に対応し，生徒の安全を確保した。 ・教職員の肯定的回答は 100%で，前年から 4.3P 上回っている。 【次年度の方針】 ・実践的な避難訓練を実施し，生徒の安全への意識向上を図る。また，台風や地震，大雨などの自然災害発生時に備え，危険個所の発見と早期対応に努める。 ・事務部との連携を図り，環境整備を行っていく。

	Ａ25　学校は，学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　図書選定委員会を計画的に開催し，学習に必要な図書を整備する。 ②　教員のＩＣＴ活用能力を高めるために，教職員の研修を行う。 ③　授業等で活用しやすいように，ＩＣＴ機器の適切な管理を行う。	Ｂ	【達成状況】 ・総合的な学習の時間などで，図書館の活用やパソコンの利用を推進してきた。 ・教職員の肯定的回答は 78.9%で，昨年と同程度であった。 【次年度の方針】 ・授業の中で生徒が ICT 機器を主体的に活用し学習する場面を，より多く設定する。 ・ＧＩＧＡスクール構想におけるタブレットの有効活用について研究を進める。
	Ｂ２　学校は，授業以外に，さまざまな学習の場を工夫して設定し，学力向上に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 教職員の肯定的回答 80%以上	①　基礎学力の定着，学力の向上を目指し，放課後のレベルアップ学習，夏休み学習サポート，土曜日学習サポートを実施する。実施方法に改善を加え，より効果的な運営に努める。 ②　地域協議会と連携した，学力向上のためのサポート事業を企画，運営する。	Ｂ	【達成状況】 ・平日放課後のレベルアップ学習や土曜学習サポート等について，地域協議会の協力のもと，実施することができた。 ・教職員の肯定的回答は 100%で，昨年から 2.2P 上回っている。 【次年度の方針】 ・放課後のレベルアップ学習，土曜学習サポートを継続し，更なる基礎学力の定着，学力の向上を目指す。 ・地域協議会と連携し，運営方法や実施方法等について再検討する。
本校の特色・課題	Ｂ３　学校は，教室や廊下の提示物を工夫したり花壇を整備したりして，環境美化に努めている。 【数値指標】 全体アンケート 保護者の肯定的回答 80%以上	①　生徒の心を育てるための，フラワープロジェクトを推進する。 ②　美化委員会及び，各学年委員会を中心とした役割分担を明確にして，主体的に活動に参加できるようにする。 ③　各学年フロアの掲示物を工夫しながら，計画的に作成する。	Ｂ	【達成状況】 ・校内の掲示物を定期的に更新したり，美化委員会を中心にフラワープロジェクトなどの校内環境美化に力を入れた。 ・保護者の肯定的回答は 94.6%で，昨年から 2.2P 上回っている。 【次年度の方針】 ・フラワープロジェクトに，美化委員会を中心に生徒が主体的に活動できるよう，計画立案から関わらせ，職員も組織化して対応する。 ・校内の環境整備を強化し，各学年フロアの掲示物を計画的に作成する。
	Ｂ４　生徒は，交通ルールを守って，安全に行動している。 【数値指標】 全体アンケート 生徒の肯定的回答 80%以上	①　教職員による登下校時の交通指導や見守りをより充実させる。また，交通ルールの遵守や交通マナーの向上については，学年や学級で繰り返し指導する。 ②　生徒の意識を高めるために，交通安全教室に外部指導者を招聘するなど，内容を工夫する。	Ｂ	【達成状況】 ・教職員の立哨指導等を実施し，生徒の規範意識やマナーの向上を図った。 ・生徒の肯定的回答は 54.1%で，昨年から 10.6P 上回っている。 【次年度の方針】 ・立哨指導を継続して行い，規範意識の向上を図る。また，交通安全教室後にアンケートを実施し，交通ルール遵守やマナー向上にむけた意識の醸成を図る。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

【数値指標に対する評価から】

・昨年度から質問項目が刷新されて２年目となる。数値指標を達成している項目は，全 29 項目中 19 項目(65%)で，そのうち教職員対象のものは 9 項目(16 項目中，56%)，生徒対象のものは 6 項目(9 項目中，67%)となり，教職員の評価は期待値の高さもあるが達成度が低い。今後の取組を強化していきたい。特に，A10「持続可能な社会(SDGs)」についての取組は今後は一つの重要課題である。

【経年変化による評価から】

・経年変化で評価結果の推移を見ると，教職員は 27 項目(29 項目中，93%)が，生徒は 22 項目(24 項目中，92%)が昨年を同程度以上である。学校全体が，落ち着いた環境の中で取り組んでいる様子が見られる。
・コロナ禍による教育活動の制限の中，これまでとは違う工夫された実施方法が余儀なくされたが，評価結果からは昨年からの改善が見られている。
・特に，A1(学習への取組)や A2(思いやりの心)，A3(規範意識)の項目については，大幅に改善されてきた。
・A20(教職員の働き方改革)では，60%となり，いまだ課題として残るが，昨年からは 14.8 ポイント上回っており，今後もさらに業務の改善を図りたい。

【今年度の重点目標等の観点から】

・「学習指導の充実」では，感染防止対策により，学習活動の制限がある中，様々な「対話」(グループ活動)に取り組み，わかる授業の展開に努めた。また，家庭学習の習慣化のために，自学ノートの取組を継続しており，今後の学力向上が期待されるところである。今後も，「主体的に学ぶ」生徒の育成を目指し，わかる授業の展開やＩＣＴ機器やＡＬＴ(英語指導助手)の活用を充実させ，学力向上への取組を強化していきたい。
・「生徒指導」では，主体的に行動する生徒の育成を目指しているところであるが，実施方法に制限がある中でも，リーダーを中心に工夫した学校行事を実施し，生徒や教職員の集中力や対応力の高さを感じることができた。今後もさらに規範意識の向上を目指した取組を継続していきたい。
・「健康管理」では，新型コロナウイルス感染症防止として，様々な対策を講じてきた。特に，ＰＴＡや同窓会のご理解のもと，サーマルカメラの導入やアルコールや衛生備品(消耗品)の購入を進めることができ，学校及び保護者，地域の連携のもとで，安心安全な学校生活を維持することができた。
・「学校運営」としては，組織力の強化を図ることができた。特に，不登校・不適応生徒への支援の充実を図るために，スクールカウンセラー(SC)，メンタルサポーター(MS)，関係相談機関等との組織的な対応を継続することができた。また，学習指導員の配置を有効に活用し，個別指導の充実を図ることができた。
・「学校の特色ある教育活動」として，フラワープロジェクト(校内環境整備)や放課後学習支援，土曜学習サポートの充実に努めている。生徒・教職員の熱心な取組の継続により，成果が上がりつつある。今後も地域協議会との連携を図りながら充実を図っていきたい。

7　学校関係者評価

「自己評価」及び「次年度の方針」については，「適切」66%，「おおむね適切」33%という評価である。

【自己評価】に関わること
・コロナ禍においての不自由な生活を強いられた１年となったが，肯定的回答が前年を上回る結果が多く，よりよい教育環境になっている。
・校内でのクラスター発生が出なかったことは，適切な対応がとられていたと判断できる。
・コロナ禍の状況を踏まえてもできる範囲で最大限の活動ができた。
・個々の生徒に，きめ細やかな指導や対応ができている。
・保護者や学校との連携により，安全性への配慮がなされている。
【次年度の方針】に関わること
・今年度の達成状況を反映し，無理のない範囲で分かりやすい方針提示となっている。
・ＩＣＴ教育も本格化されるので，十分な対応が必要である。
・いじめ等の発生に対し，事前に様々な状況を想定しながら，研修しておくことが大切である。

〇学校教育活動全般について
・困難な状況でも，生徒たちの持つ柔軟性や対応力に驚かされている。
・コロナ禍の中で，状況を的確に判断して進めていければよい。
・学校や教員だけでは必要な教育を賄えず，家庭内や地域住民などからも学ぶ機会はあるはずである。保護者や地域が，学校教育に関わり，協力していくことが大切と感じている。
・教員が生徒たちとの時間をより多く共有できるよう，保護者ができることを発信していただきたい。
・学区内の児童養護施設における社会的養護の必要な児童生徒に対し，適切な学校運営を行っている。
・学校側の努力と工夫に感謝をしたい。

8　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

今年度の，「コロナ禍」における学校教育は困難を極めたが，生徒，教職員の工夫ある取組により，また保護者や地域の支援をいただいたことにより，学校生活全般において活気が見られ，良好な状態である。次年度は，今年度の成果と課題を踏まえ，十分に検証をした上で，より実践的で効果的な取組を継続させていきたい。

・学力の向上を図るために，教員は生徒にとっての「わかる授業」の展開に努める。特に，ＧＩＧＡスクール構想に伴うＩＣＴ教育の推進を図ったり，学校図書館の利活用を効果的に図ったりすることで成果を上げたい。また，特色ある取組としての，「放課後学習支援・土曜学習サポート」を継続・充実させ，学びの保証に向けても取り組んでいく。
・生徒が主体的に活動できるような場面を積極的，意図的に設定し，生徒の達成感や自己肯定感を高められるようにする。特に，学級活動や総合的な学習の時間，学校行事における集団意思の決定やルール作り等の場面で，リーダー的な生徒の育成とともに，互いに成長させるための手立てを意図的に図る。
・本校の一つの課題である，不登校・不適応生徒への支援については，これまでの取組の成果を生かしつつ，個の特性や状況に応じた適切な支援方法を検討し，関係機関と連携を図りながら充実に努める。
・生徒一人一人に向き合い，生徒理解を深めながら，いじめの未然防止に努めるとともに，早期発見・早期対応ができる学校組織の構築を推進する。
〇・あいさつ運動の強化を図りながら，時と場に応じた言動ができる生徒の育成を目指す。
〇・小中一貫教育の持続可能な取組を検討しながら，充実を図る。
・ボランティア活動の充実を図り，地域に貢献できる生徒を育成する。
・「開かれた学校」を目指し，保護者や地域住民が学校教育に参画する機会を増やすとともに，各種便りの発行や学校ＨＰにより，学校の情報を積極的に発信し，学校への理解と協力が得られるように努める。